

「令和 6 年度エネルギー使用合理化シンポジウム」を開催しました

関東経済産業局 資源エネルギー環境部 省エネルギー対策課

令和 7 年 2 月 17 日（月）から令和 7 年 3 月 17 日（月）の期間で「令和 6 年度エネルギー使用合理化シンポジウム」を開催（オンデマンド配信）しました。

本シンポジウムでは、2050 年カーボンニュートラルの実現も見据え、より一層の省エネルギーの推進と取組を後押しするべく、省エネ政策の動向や、脱炭素の潮流、工場・事業場の具体的取組事例等を配信しました。

本シンポジウムは、平成 18 年度から毎年開催しており、平成 28 年度からは、関東電気使用合理化委員会も共催しています。

今年度も、配信期間を限定したオンライン形式にて開催しました。プログラムは、関東経済産業局資源エネルギー環境部長より主催者挨拶を行い、第 1 部では、「省エネ施策・制度」と題して、省エネ法特定事業者に向けて「定期報告書等作成のポイント」を、また、カーボンニュートラルの実現に向けた手段として注目されている「CCS（Carbon dioxide Capture and Storage）について」を資源エネルギー庁より説明しました。第 2 部の基調講演では、一般社団法人日本エレクトロヒートセンター 代表理事・会長、筑波大学名誉教授の内山 洋司様より、『電気のチカラで産業の GX に貢献』というテーマでご講演いただきました。第 3 部は、具体的な省エネ取組事例として 3 事例の発表をいただきました。

本シンポジウムでは 2,196 名の方に視聴登録をしていただきました。また、多数の方からアンケート回答にもご協力いただきました。ご回答いただいたアンケートからは「繰り返し見られるので理解が深まった。」「同業種の省エネ事例の発表があり参考になった。」といった声が寄せられました。

<プログラム>

主催者挨拶 経済産業省 関東経済産業局

第 1 部 省エネ施策・制度

定期報告書等作成のポイントについて

経済産業省 資源エネルギー庁

CCS（Carbon dioxide Capture and Storage）について

経済産業省 資源エネルギー庁

第 2 部 基調講演

電気のチカラで産業の GX に貢献

一般社団法人日本エレクトロヒートセンター 代表理事・会長、筑波大学名誉教授 内
山 洋司 氏

第 3 部 事例発表

(事例発表 1) 省エネ診断と省エネお助け隊を活用した木工工場の省エネ活動

株式会社生晃

(事例発表 2) ハードディスク (HD) 製造工場の省エネルギーへの取り組み

株式会社レゾナック・ハードディスク

(事例発表 3) 慶應義塾のカーボンニュートラルに向けた取り組み

慶應義塾

関東経済産業局省エネルギー対策課では、今後も、省エネ法の動向、施策や取組事例等の情報提供をさらに充実させ、皆様の省エネの取組を応援して参ります。